

看護研究研修会 テーマ：「チャレンジ ナース！ 研究を通じて自分自身を輝かせよう！」



臨床研究支援センター所長
秋ゆたか先生

-略歴-

1959年 東京生まれ
1986年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
保健学博士 看護師 保健師 昭和大学医学部
札幌医科大学を経て、
1998年 岡山大学医学部保健学科教授
2000年 臨床研究支援センターを設立
全国の医療者の研究支援に奔走
本業の傍らリコーダー奏者、
作曲家としても活動中

研修担当者（府北役員）

英 都貴子 大辻 泉 東口 すみ江 原山 郁子



看護研究というと、ついつい二の足を踏んでしまいがちですが、日常にある何気ない疑問に関心を持てば、研究に発展させることが出来ると感じました。論文の書き方（言葉の使い方）や上司、指導者の関わり方の注意点など、たくさんのお事例（笑える）を交えての講演

でしたのであっという間に1時間半が過ぎました。

秋ゆたか先生のサプライズ演奏（リコーダー）も心をホッと温かくしてくれました。また先生にお目にかかれる日を楽しみにしております。

編集後記 府北支部書記 青野 裕子

この度の看護研究の研修は、最初から最後まで、まるで落語や漫才でも聞いているかのような楽しい研修でした。疑問をもった事は直ぐに調べて分かる楽しみを知る、言葉は正確に使うなど多くのことを学ばせていただきました。是非、続編も計画したいですね。

次回研修会：2023年7月開催予定

本日は、大切な講演会にお招きいただき、厚く御礼申し上げます。

臨床現場にいらしゃる看護師の方々にとりまして、研究は苦痛であり、できれば避けて通りたいもののようにあります。私の調査結果あるいは経験的知識から判断しますと、その苦痛の原因は、1)何をテーマにしてよいか分からない、2)研究計画書を書けない、3)発表原稿・論文執筆で悩む、4)順番制、5)指導者によって言うことが違う、といったことに集約できるように思います。

私は2000年11月以来20年以上にわたって、臨床看護研究の支援に没頭してまいりました。

本日は、上述した臨床看護師の方々の苦痛の解決に向けた私の実践体験をご紹介します。

【謎解きの世界を楽しむ基礎訓練を】

私はクイズ番組が大好きで、いつも9歳の娘と競い合うように見ております。それは、問題が解けると嬉しいからです。私は研究の講義をするときも、難しい話ではなく「謎解きの面白さ」を伝えるよう心掛けています。そして、看護に関わらずどんなことでも良いから、自分の疑問を解決して楽しく発表するというグループワークを行います。こうした基礎学習からの働きかけは、テーマ選定の視点を育むことにも繋がります。

【いきなり計画書を書かせない】

本来、計画書は「その通りに実行すれば研究が完成する道筋を描くもの」で、料理でいえば「レシピ」に相当します。しかし、一度も料理を作ったことがない人に「レシピ」が書けるでしょうか？やはり上述の「謎解き体験」を積んでからでなければ、道筋の立てようがないのです。研究計画書を求めるのは、その基礎訓練が終わってからでも遅くはありません。

【InputなしにOutputはできない】

上述の2)と3)の苦痛は、どちらも文章を書く作業(output)に関連しています。私の持論は、「良いoutputは十分なinputなしには為しえない」ということに尽きます。そして「Inputするときは、根源まで理解すること」を自分のモットーとしております。

例えば、省略形。「WBCは何の略ですか？」と訊かれたら、臨床現場の方は「白血球」と答えるでしょう。でもこれは正解ではありません。「何の略ですか？」という問いに対しては white blood cell と答えるべきです。同じWBCでも、文脈によっては、今話題の world baseball classic かも知れません。このように、一步深い所まで踏み込んで学ぶ普段からの姿勢が、良い output に繋がって行きます。

【順番制と討論・支援の一貫性】

研究を順番制で割り当てるのは、たしかに負担感を助長します。そこで私は、まず指導的立場にある師長格の方々が率先して取り組むことをお勧めしています。そしてその作業過程はすべて公開討論として、その場にスタッフの自由な参加を募ります。こうすることで、「上司がこれほど頑張っているのだから、私も参加したい」という声必ず挙がってきます。また、意思決定の方向性をすべて討論で決めていきますから、研究の支援的立場の方、例えば病棟師長と教育委員長の言うことに齟齬が生じるという混乱も回避できます。

こうした営みのなかで、臨床現場の皆さまと私との研究成果は、この20数年間だけでも300報を超えております。研究成果を発表される方々の姿を私は学会のフロアでいつも見守っておりますが、それは本当に輝いて見えます。

【まとめ】

今回は、研究に対する苦痛感を和らげ、一步前進するための方法の一部をお話ししてまいりました。

もし今後、続編を語る機会が与えられるのであれば、「テーマ選定」「データ収集」「統計処理」「研究発表」という道筋に沿って、具体的な研究支援の有様をご紹介しますと願っております。

また今回のお話しを聴いていただいて、「秋ゆたかの話をもっと聴きたい」「秋ゆたかと一緒に研究をしたい」というご要望がありましたら、いつでもお声かけください。私のペンネーム「秋ゆたか」に因む aki-yutaka@nifty.com でお待ちしております。

本日は講演会にご参加いただき、まことにありがとうございました。

ご意見・ご感想について（一部抜粋）

40件のご回答

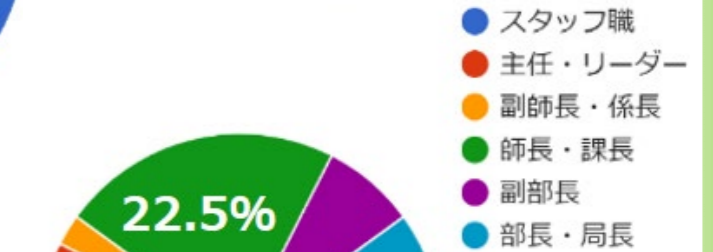
- ☆良い意味で期待を裏切った、楽しい研修でした。
- ☆期待した以上の内容だった。是非、改めて当院の職員にも多く参加してもらいたい。
- ☆看護研究はもっと難しいものと考えていたが、少し考え方が変わりました。
- ☆とても面白い研修で引き込まれました。研修を受けて本当に面白かった！よかった！とこんなにも感じたのは初めてでした。看護研究に対する憂鬱な気持ちは吹き飛びました。ユーモア溢れる研究がしたいです。ありがとうございました。
- ☆看護研究の具体的な進め方を改めて聴きたいです。
- ☆楽しく聴講できました。
- ☆研究の題材が決まってからの話が聞きたい どのように研究していけばいいのか。
- ☆何をしたいのかわからないと言われる研究を身近なものにしてとりくむ ヒントになりました。
- ☆本当に今回の研修会は、良い意味で期待を裏切る内容でした。再度、研究を楽しむ自分を取り戻したいと思いました。
- ☆なんでも、楽しく面白く取り組まないと損だなーと思いました。研究を楽しく今あるものにします。
- ☆看護研究はとっつきにくい印象であったが、看護学部の授業で受けていればもっと興味のある分野になっていたかも知れない、と思う講義内容であった。
- ☆型にはまらずに自由な発想で研究をすれば良いと学んだ。
- ☆先生の講義を聞くと看護研究のハードルがさがり、やれる気が湧いてきます。今日は病院から5名参加させていただきましたが、もっと多くのスタッフに聞いてもらったらよかったと感じました。楽しい講義をありがとうございました。
- ☆研究は難しい、ハードルが高いと思いがちなので勿体無いひらめきや発見が周りにたくさんあったんだろうなと思いました。発想の転換、特に研究を支援する側の視点を、というところは全国の全上司にお伝えしてほしいと思いました。
- ☆看護研究したことがあるので、ちょっと物足りなさがあったのですが、来年度取り組んでもらうスタッフへの指導に、今日学んだことを活用します。
- ☆とても有意義な研修でした。日常業務が忙しいことを理由に研究には長年とりくめていないですが、前向きに取り組んでいきたいです。
- ☆楽しい講義内容でした。先生や学生の方たちのように柔軟な考え方ができればなあと羨ましかぎりです。普段から情報が入ってきてもその意味や由来など気にしたことがなかったので今日から気にしていきます。ありがとうございました。
- ☆とても楽しい時間を過ごし、研究に興味を持ちました。看護研究をする職員だけでなく子供にも見せたいです。
- ☆ユーモア溢れる講義でとても面白かったです。看護研究と言うと堅苦しいイメージでしたが、身近なところから疑問を持つことで始められるんだと学びました。
- ☆楽しい研修でした。まずは責任者が研究に取り組むことは、私もそう感じていて、実行しています。仕事で苦しいと感じる時は、ポジティブな言葉に変換することを心がけていきます!! もっと話を聞いていたい研修でした。ありがとうございました。
- ☆とても楽しい研修会でした。研究とはどんなものなのか、どんなことを研究すれば良いのか分からない状態だったので、考え方をわかりやすく、楽しく教えてくださってありがとうございました。
- ☆物事を根本から考えていくことの大切さは、納得できました。大阪のおばちゃんの比較は、本当に楽しくお話を聞けました。先生の生演奏は、素晴らしかったです。音楽は、人を癒すことができる最強なものだなあと感じました。ありがとうございました。また何処かで、講演をお願いしたいです。

他、多数のご意見をいただきました。ご協力いただきありがとうございます。

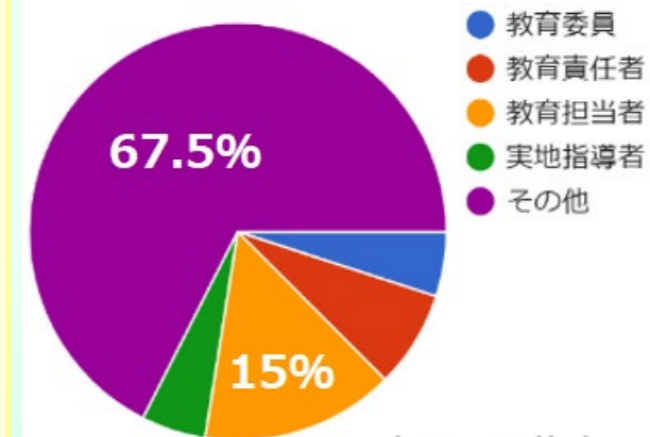
あなたの職場についてお答えください。



あなたの職場での職位をお答えください。



職場におけるあなたの教育的役割をお答えください。



今回の研修会の内容は、今後の職務に活用できそうですか。

